

## 大地を守る（国営諫早湾干拓北部排水門）

— 長崎県諫早市 —

(株)三祐コンサルタンツ 渡邊圭四郎

### 1. はじめに

諫早湾干拓事業は、昭和 61 年に事業着手し、環境影響評価の実施、漁業補償交渉の妥結、公有水面埋立承認等の諸手続きを経て、平成 4 年に潮受け堤防の工事に着工した。

平成 9 年に瞬時締切り方式による諫早湾奥部の締切りを行い、調整池設置後順次、内部堤防の築堤、干拓地内の農地整備等を実施し、平成 19 年に土地配分を行っている。また、2 度の計画変更を行い、現在の姿となっている（図-1）<sup>1)</sup>。

国営諫早湾干拓事業で建設された北部排水門（表紙写真）は調整池の水位を一定に保つため、諫早湾の干満に応じて開閉する排水門である。背後低平地における高潮、洪水、常時排水不良に対して防災機能の強化を図っている。以下、排水門の役割と諫早湾干拓事業における効果の一例について紹介する。

なお、諫早湾干拓事業の目的・概要については本誌 86 巻 2 号を参照されたい。

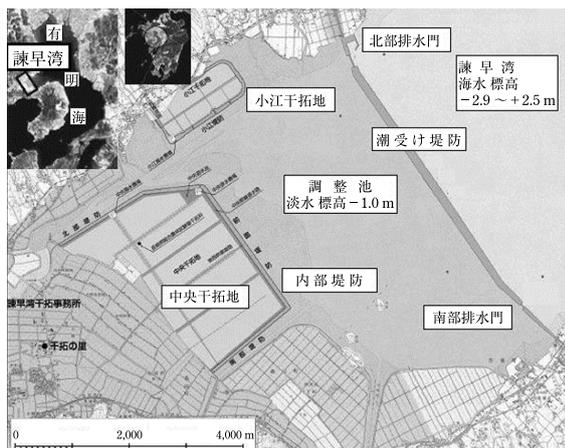


図-1 国営諫早湾干拓事業計画平面図

### 2. 排水門の役割

諫早湾は、潮の干満差が大きく、本明川河口から沿岸にかけて干潟が成長し、古くから洪水や高潮の災害が繰り返されてきた。

本事業で造成した潮受け堤防によって、台風などに

よる高潮を遮断することにより、潮の干満に関係なく調整池の水位を低く管理することで、洪水時、常時の排水改良が図られている（写真-1, 2）。

全長約 7 km の潮受け堤防には調整池の水位を一定に保つため、諫早湾の干満に応じて開閉する排水門が



写真-1 北部排水門からの排水状況



全長約 7 km の潮受け堤防は伊勢湾台風級の台風を想定し天端高が決定されている。

写真-2 潮受け堤防の状況（雲仙市側）

表-1 排水門の施設概要

項目	仕様
形式	フローティングタイプ
規模	北部排水門：径間 36.95 m、扉高 9.0 m × 6 門 南部排水門：径間 28.30 m、扉高 9.0 m × 2 門
ゲート構造	シェル構造鋼製ローラゲート

2カ所設置されている。排水門の概要は表-1のとおりである。

なお、潮受け堤防と排水門による防災効果は以下のとおりである。

(1) **高潮被害防止** 潮受け堤防と排水門が高潮、波浪を遮断するため、台風時においても、高潮被害が生じることがなくなっている（写真-3, 4）。



排水門に打ち寄せた高潮と波しぶき。

写真-3 高潮時の排水門の状況



写真-3 と同時刻。潮受け堤防背面の調整池は高潮の影響が遮断されている。

写真-4 高潮時の調整池の状況

(2) **洪水被害防止** 調整池の水位を平均海水面より1.0m低く管理することにより、大雨時においても標高の低い背後地の雨水はスムーズに調整池に流れ込み、堪水被害を抜本的に改善している。

(3) **排水不良の改善** 締切り前は、潮受け堤防内側でも濁土が堆積して周辺地域からの排水の支障となり、わずかな雨でも一帯が水浸しとなっていたが、締切り後は濁土の堆積がなくなり、スムーズな排水が可能となっている。

### 3. 諫早湾干拓堤防道路の時短効果

現在、諫早湾干拓堤防道路（雲仙多良シーライン）の一般の方々への供用が開始されている。これにより、諫早市高来町と雲仙市吾妻町間の距離が1/3に、

また所要時間が1/4に大幅に短縮されている（図-2）。この道路は農作物の輸送の合理化のみならず、島原半島と諫早市や佐賀県との新たなルートとして、観光面や地域間交流においても大きな役割を果たしている。



図-2 諫早湾干拓堤防道路の時短効果

### 4. 諫早湾干拓事業による農業と雇用の創出

大規模ハウス栽培や集出荷施設、大型農業機械など先駆的な大規模経営に各種の投資が行われ、若い農業者が育つとともに多くの雇用が創出されている。

入植者の1戸当たりの経営面積は16haであり、全国平均約1.6haの10倍の経営が行われている（写真-5）<sup>2)</sup>。



写真-5 広大な中央干拓地圃場の状況

### 5. おわりに

諫早湾干拓地では、調整池を水源とする灌漑用水を利用し、大区画で平坦な優良農地を活用した農業が展開されている。

北部排水門はその一助として大地を守り続けている。

### 引用文献

- 九州農政局諫早湾干拓事務所：国営諫早湾土地改良事業概要書（2007）
- 長崎県：諫早湾干拓地の営農，<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/08/1376456715.pdf>（参照2019年10月2日）